

私達は、「閉塞感」や「将来不安」を抱えている

→ こういう状況に「示し合わせる」（辻褄を合わせる）かのようにタイミング良く、国は、「GDW」（=Gross Domestic Well-being：国内総充実度）や『ウェルビーイング』（≡幸福）という言葉を使うようになった。またビジネスの世界も、「ウェルビーイング経営」や「幸福論」を言うようになってきた

どうして、「閉塞感」や「将来不安」が蔓延する状況になって、「幸福」（≡ウェルビーイング）が言われ始めたのだろうか？

騙されてはいけない！ — どこかに、“思惑”や“まやかし”（ごまかし／二枚舌）があるのではないだろうか・・・。

→ しかし、たとえそうであっても、“右肩下がり”の社会や『AI／人生100年』の時代となった今、自分自身のために、ここで立ち止まって、私達日本人が不得手とする／これまであまり意識してこなかった「幸福」と「幸せな人生」について、一歩踏み込んで考えてみるのは、有意義ではないだろうか



というのも、“右肩下がり”が続く日本の社会において、「右肩上がりの幸せな人生を送っていける人」は、せいぜい「2割」と思われるから・・・

→ 「2：6：2」の法則があるが、中間層の「6」が消えて、「2：8」になろうとしている。つまり、「8割の人」は、“右肩下がり”や“不幸せ”な人生を送っていくことになる。— まさに、新たな《人生戦略》が必要となっている